

ティーチング・ステートメント

所属 工学部建築学科

名前 中村景月

作成日 2023.03.12

【責任】

工学部建築学科に所属し専門である都市計画や都市史を中心とした教育・研究活動に取り組んでいる。主な教育活動は、都市計画関連科目（3年都市デザイン、3年景観デザイン、1年世界の都市と建築、1年建築ツーリズム）、演習科目（3年BIM演習、1年基礎製図、1年プロジェクトスキル）の担当である。また、来年度よりゼミ指導も受け持つ。

【理念】

学生にはまず人として自分なりの評価軸をもち、かつ、それを他者との間で常に顧みて、学び続けることができる者であってほしい。これからの学生は、選択肢に溢れている一方で、非常に狭い見識にも陥りやすい。今日の社会をたくましく生き抜くことが求められている。

建築や都市に関わる者としては、自分の身の回りにはじまるあらゆる環境に真摯に向き合い愛着を持って接することができる者となってほしい。私自身、研究を通じてある地域と深く関わってきたが、それによりその地域だけでなく建築や都市そのものへの関心が一層深まっていった。また、建築や都市は様々な人との協働や試行錯誤によってできている。その中で互いを尊重しながら自分なりの役割をみつけることができれば、充実した仕事に取り組むことにもつながる。

【方針・方法】

上記の学び続けることに向けた理念にもとづき、「建築や都市を学ぶことの楽しさを知ってもらう」、「ヒト・建築・都市への観察力を養う」、「建築に限らない多方面への関心を広げてもらう」、「学生同士の協働や学び合いを促す」、「教員として学生と共に学びつづける姿勢を示す」を方針としている。

方針1 建築や都市を学ぶことの楽しさを知ってもらう

・学ぶことの楽しさは、まずは自分なりの関心をもつことと考える。そのため、関心をもって授業に入り込みやすいように、各回授業冒頭に授業内容のテーマやポイントを興味深い事例と共に説明している。

・学びを楽しむためには、授業の受けやすさも重要と考えられる。手を動かす時間と話を聞く時間の両方をとれるように、スライドと手元資料の内容を合致させるようにしたり、手元資料をノート代わりに使用できるように工夫している。

方針2 ヒト・建築・都市への観察力を養う

・まずは、自分なりの関心に従って物事を捉えること（目の付け所）で観察力が向上すると考えられるため、授業内容を振り返りながら学生自身の関心に沿った、学生に対象などを選ばせるレポート課題を課している。

方針3 建築に限らない多方面への関心を広げてもらう

・学生自らの省察を促すために、授業内では都市を計画したり生活したりする際の価値観の変化や対立など、複数のものの見方や考え方を提示することに努めている。

- ・興味を惹かれるよう、すべてのスライド上で可能な限り、図や写真を多用し、学生の集中力を保つことも兼ね、地図や比較写真などを示した挙手形式のアンケートや問いかけをおこなっている。

方針4 学生同士の協働や学び合いを促す

- ・担当する演習授業のグループ課題の際には、かならず各グループで仕事が分担できているかに気を払い、できていない場合は学生同士で分担しあうように促した。
- ・別の教員が受け持つ複数のゼミ生に対し、専門的なソフト（GIS）の使い方を尋ねられた際に、基礎的・基本的なことを指導したのちは、互いに教え合いながら使うように伝えた

方針5 教員として学生と共に学びつづける姿勢を示す

- ・他大学の BIM に関する講座を受講し、授業の改善や充実に向けて自己研鑽を続けている。

【成果・評価】

- ・授業アンケートでは興味の幅が広がったなど、新しい視点を獲得できたという実感を学生に与えることができた。
- ・授業アンケートの結果から、スライドが理解しやすいという評価を得た。
- ・学生からの意見を伺って、授業方法の改善をおこなったことが、学生の学びやすさにつながったと授業アンケートの記載されていた。
- ・教え合いを促した学生がソフトを駆使して卒論を仕上げた。

【目標】

- ・長期目標：学び続ける姿勢を身につけた、大学院進学を目指す学生を増やす。
- ・短期目標1：授業を通じて、たったひとつでも記憶に残るような印象的な内容を各回に盛り込むことで、学生の学びの質を上げたい（2024年前期）。
- ・短期目標2：自らの気づきや思考を促すために、レポート評価のフィードバックを行う（2024年後期）。
- ・短期目標3：ゼミ活動や卒論においては、学生と共に研究を進めることで自らの研究活動や姿勢を示す（2025年度）。